

令和3年6月17日

学校法人三幸学園
千葉こども専門学校
校長 高橋 一博 殿

学校関係者評価委員会
委員長 富永 隆幸

学校関係者評価委員会実施報告

令和2年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 富永 隆幸 (飛鳥未来高等学校千葉キャンパス キャンパス長)
- ② 北見 桃佳 (2020年度 卒業生)
- ③ 鶴 奈穂子 (千葉こども保育園 園長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

令和3年6月17日 (会場 千葉こども専門学校 2F 応接室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

令和2年度 学校法人 三幸学園 千葉こども専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 脇本貴行

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 富永隆幸

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・前年度から引き続き「人間性を高めるためのよりよい教育実践」

「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成することを方針とし、知識や技術を研究するにとどまらず人間性を高める教育を展開することにより真の社会で役立つ人材を育成、輩出することができると考えている。

コロナ禍において、新たな授業の仕組みづくりを模索していくこととなり、授業環境においてはソーシャルディスタンスを確保しながら、クラスを分けて少人数で双方向型授業を実施、またオンデマンド授業では生徒の学びの質を担保しつつ、工夫をしながら授業の体制を構築していくことが急務となった。

学習の成果としては、教員が一丸となって将来の保育者像を具体的にイメージさせながら学校生活を過ごせることができるよう授業での工夫を行うことにより、退学率を大幅に減少することができた。また、就職決定率においても担任・エリア担当中心に、生徒一人一人に合った就職情報の提供、きめ細やかなサポートにより高い結果を残すことができた。

今後も引き続き退学率減少に向けた取り組み、実習に向けた指導内容の充実、卒業生へのサポート支援体制の構築、課外・ボランティア活動の活性化等を課題として取り組む必要がある。近隣の保育施設や商業施設とコラボレーションした生徒の学びを深めることは継続して行っていく必要がある。

② 学校関係者評価委員会コメント

・在学中退学を考えた生徒に対して、高校の先生と連携を図り対応することで防止する事例があった。引き続き高校とも連携を深め退学者を減らしてほしい(富永委員)

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ・学園の「教育理念」「目指す人物像」について教職員・保護者への理解の浸透をより強化する
- ・保育業界のニーズに対応した人物育成を教職員、また生徒自身が理解し、具体的な目標として自分の思い描く将来像と合致させる

② 今後の改善方策

- ・年度初めにオンデマンド保護者説明会を実施する。また学生便覧を配布し、ホームルームで浸透を図る。
- ・保育園・施設訪問を更に強化し、積極的に現場の話を聞いたり、現場・業界のニーズに合わせた目標を設定する。また、教職員研修等の充実を図る
- ・収集した情報を多面的に分析し、教育課程の編成、また授業展開に活用していく

③ 特記事項

- ・教育理念・目標、人材育成像を体系化し全教職員への浸透を図る
- ・三幸学園の「あきらめない教育」を小冊子化し配布、全教職員を対象に研修を実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・オンデマンド授業は画面越しで受講し、出欠は課題を提出することで判断していたので、対面型のように真面目にしっかり課題に取り組んだ生徒と、適当に課題を提出した生徒の差があまりなかったように感じた。ただ、昨年の突然の流行の中では仕方ないと思う。オンデマンド授業のメリットとしては自分の理解状況に合わせて授業（映像）を止めたり進めたりすることができたこと。しかし、やはり対面の方が良かったと感じる。（北見委員）
- ・高校はなるべく緊急事態宣言の中でも登校ができるようにした。テストの結果的にはオンデマンドによる弊害などは見られず、むしろ不登校の学生も勉強する機会を設けることができたことでメリットがあった。（富永委員）
- ・保育園では保護者向けに Youtube の配信や、DVD（＝生活発表会など行事のみ）作成を行うなど日頃の保育の取り組みを見える化できるよう工夫した。緊急事態宣言下では子どもと遊ぶ方法を配信したが、現在 Youtube では遠足の様子や園での日常生活を配信している。保護者や祖父母などからは好評いただいております、やって良かったと感じる。また、PC の操作などが得意な若手職員の力がとても大きかったと感じている。（鶴委員）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・グループウェアやITを活用した情報共有によるシステムの導入、推進
- ・教務事務システムを活用した出欠管理・成績管理の効率化
- ・オンデマンド授業および、SANKOGATEでの生徒の出欠管理、課題提出等の体系化

② 今後の改善方策

- ・SANKOGATEの活用
- ・学園システム推進室との連携
- ・グループウェアの効率的な活用方法の推進
- ・電子出席簿の導入

③ 特記事項

- ・全教職員会議を実施し、運営方針の浸透・情報共有を行う
- ・Wi-Fi 環境については、全教職員、生徒にアカウント発行をしている

④ 学校関係者評価委員会コメント

・メール(SANKOGATE)は普段から基本的に使うことがなかったので使いにくかった。就職するにあたってパソコンを使用することが増えたが、学校では1年次でしか学習する機会がなかったので、就職する前にしっかり学べれば良かった。2年次でもパソコンの授業があれば良かったと感じている。

また、在学中に週案や月案なども更にしっかりと学べたら良かった。保育の現場では連絡帳の重要性を感じており、連絡帳一つで保護者と密に関係を構築していく必要があり、そういった部分の書き方(連絡帳の書き方や子どもの観察記録の方法)などを学べたら良かった。また座学の授業はもちろんだが、授乳やおむつ替えなど、もっと実技の授業があると嬉しい。(北見委員)

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・職業を見据えた講師の授業力向上
- ・キャリア教育のための教員のスキルを磨く機会が不足している
- ・コロナ禍における実践的な職業教育（インターンシップ、実習等）の体系化

② 今後の改善方策

- ・キャリア教育、授業力向上の研修等を取り入れる
- ・在学時からの長期就労に対する授業・ガイダンスを行う（卒業生・業界の方からの意識づけ）
- ・地域の保育園等と連携を図り、授業内で発表会やボランティアへ積極的な参加の促しを行う
- ・授業アンケートを活用し、個々の課題の把握とスキル向上を図る
- ・教科会や、クラス会など、実践力向上のための情報共有や意見交換の場を作る

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・保育園では、ICT時代に即した保護者との連絡ツールなどを積極的に取り入れている。連絡帳の書き方などに関しては、それぞれの保護者に違った言い回しなどが大切になるため、ボキャブラリーなどが必要になる。現在、園ではこどもんアプリを活用中。卒業年次にICTに関する内容を授業内で行っていくとよいのではないかと。(鶴委員)

・高校分野としても来年度からタブレットを全員に配布する予定。数年後にはICTを当たり前に使こなせる世代の学生が入学してくるので、そこもふまえた授業展開などを検討するべきかもしれない。(富永委員)

(4)学修成果

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・退学者のさらなる低減(2018年度:10%、2019年度:6.2%、2020年度:2.3%)
- ・卒業生の就労状況の把握(活躍や就労継続)

② 今後の改善方策

- ・クラス会議の実施と退学防止事例や、退学者アンケートの共有を実施
- ・スクールカウンセラーの活用、担任を中心とした教科担当教員との連携
- ・ハイパーQUアンケートを活用したクラス運営
- ・卒業生および就職先との連携

③ 特記事項

前年度よりチーム担任制をとっており、1クラスに対して複数名の担任が生徒と関わりを持つことで、より生徒の状況を把握し、退学防止につなげている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・保育現場では、保育士の退職率は減っている。加えて児童数も減っているため、年々保育園の競争が進んでおり、保育の業界も売り手市場から少しずつ買い手市場へ移り変わっているのを感じる。東京では数年後には児童数がピークアウトしていく。またコロナの影響をはじめ、保護者の働く企業の福利厚生が整ってきたこともあり、0歳児の入園児が減っている。国や県からの保育園への補助金が一番高いのが0歳児であり、保育園運営にも少しずつ影響がでていると感じる。また、これまで職員の退職理由は、人間関係であることがほとんどだったが、これまでと違い、在宅勤務などで職員の働き方も変化したこと、また職員間の密な関わりが減ったことが、退職率が下がっている要因かもしれない。現在、グループ内でも児童不足で余剰の職員が他の園に配属されるなどの対応が多くなってきており、中途採用はしない方向で動いている。(鶴委員)

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・卒業生との連携強化及び支援体制の強化
- ・保護者との連携は課題のある生徒に偏る傾向がある。
- ・在校生の就職活動にむけての動き出しの早期化

② 今後の改善方策

- ・授業内での就職へ向けて早期活動開始の指導
- ・SANKOLINK(同窓会LINK)の情報発信と活用
- ・定期的な保護者連絡、学校行事等の見学の機会を設定

③ 特記事項

- ・卒業生の卒業後のフォローを目的としたSANKOLINKの浸透・活性化
- ・担任、エリア担当によるTwoTeachersシステムにて実習・就職サポート

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・高校の卒業生が保育者として夢を叶えて頑張っている話を聞くと非常に嬉しい。今後も入学前指導等、専門学校と連携して生徒にとってより良い進路指導をしていきたい。(富永委員)
- ・在学中に学んだことが保育の現場で役立っていることを卒業後に実感している。今後も未来の保育者のために実践的な授業で未来の保育者を育ててほしい。(北見委員)

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・実習途中でリタイアしてしまう生徒のフォローアップ体制
- ・防災に関するマニュアルはあるが、教員・生徒の理解の浸透が必要

② 今後の改善方策

- ・実習先との密な情報共有を行う
- ・実習指導内容の見直しと事前指導の徹底
- ・施設の保守点検及び管理
- ・生徒の防災意識の啓蒙と緊急時の危機管理の周知徹底

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・現在、保育園の防災備品などを専門学校との共有スペースで管理しており、今後も備品の管理については協力体制が必要。（鶴委員）
- ・生徒の防災意識も引き続き高めていく必要がある。（富永委員）
- ・保育の現場では、毎月避難訓練を行うなど、子どもたちにも防災意識を持てるよう関わっている。実習の際にも避難訓練に参加できたことは良い経験であったと感じる。（北見委員）

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・教務(教育成果)と広報(生徒募集)の連動を意識した募集活動

② 今後の改善方策

・教育成果を伝えられる魅力的な広報活動を適正に行う

③ 特記事項

・入学者数 2020年度 116名 ⇒ 2021年度 182名

生徒数 2020年度 290名 ⇒ 2021年度 341名

・地域広報室との連携を強化し、生徒のニーズに合った情報提供を行う

・中学生の学校見学や、高校1・2年生の広報活動において、職業理解を深め保育者を目指してもらえるような意識づけを行う

・学納金は教育研究費・人件費・施設管理費なども算出基盤としている

・学納金の決定に際しては、他校の学費水準も把握した上で決定している

④ 学校関係者評価委員会コメント

・引き続き保育の魅力を伝え、将来保育を目指す人を増やしてほしい。(鶴委員)

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・さらなる法令遵守の推進

② 今後の改善方策

・職員会議や掲示物などを通し、すべての職員に法令遵守に対する啓蒙を行う

③ 特記事項

・2014年度自己評価結果公開を開始

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2

① 課題

・コロナ禍において、ボランティア活動の参加や地域連携・教育連携の機会が減少しているが、対策を取りながらできるだけ経験させる機会を増やしていくことが課題

② 今後の改善方策

・ボランティア活動の積極的な斡旋・ボランティア先との関係構築
・インターンシップを積極的に促し、地域貢献を推進

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(11)国際交流

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

- ・留学生に対して積極的な募集を行えていない(コロナ禍の渡航規制も緩和されていない)
- ・入学者の実習先・就職先の確保が困難(就労ビザがおりない)

② 今後の改善方策

- ・留学生向けHPのコンテンツ強化
- ・留学生向けの説明会、ガイダンス等の実施回数を増やす
- ・留学生の就職先確保、母国の業界状況の把握、母国の就職斡旋等を強化する
- ・三幸学園の日本語学校との連携

③ 特記事項

- ・2014年度より「留学生学費軽減入学」制度を実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・実習については、個性の強い生徒や持病を抱えた生徒が実習に来た場合など、保育園側としてもできるだけ配慮しているが、学校側にもフォローしていただきたい。(鶴委員)

・在学時は特に困ることなく就職活動を終えることができた。東京近郊に住んでいる友人の中には特にコロナの影響を受けた友人も多かった。就職指導の授業に関しては面接練習などサポートしてもらえ、よかったと感じている。(北見委員)

・高校では、コロナ禍において生徒の就職に関しては苦戦した。生徒の専門学校への進学に関しては、入学を希望する保護者も、就職率を気にしていることが多いので、就職指導に力を入れて、実績をあげてほしい。(富永委員)

・総合的な評価結果として、授業環境の充実と生徒の学びの質を担保しつつ、工夫しながら授業の体制を構築していくことが求められるため、コロナ禍における工夫や取り組みについては引き続き実施する。また退学率減少に向けた取り組みや卒業生サポート支援体制、ボランティア活動の活性化等を課題として取り組む必要がある。

今後も担任、エリア担当中心に生徒一人一人に合った就職情報の提供やきめ細やかなサポートを行っていく。